

月例研修会

(井手町・桜) レポ



小島 武雄

4月2日(火)朝10時、新しくなったJR玉水駅に31名が集まりました。良い天気恵まれ、暖かく風もない絶好の花見日和です。例年より桜の開花が遅く23日から始まった「井手町さくらまつり」も終盤になって玉川堤の桜がやっと3分咲きに、なんとか間に合いました。約1.5kmの両岸には500本のソメイヨシノ。見下ろす玉川の清流はキラキラと輝き、清々しい川音の中を歩いていきます。道沿いには多くの歌碑が並んでいます。

途中、井堤保存会の皆さんが、休憩所でお茶の接待での声かけや、軽やかに音を立てて回る水車を見せてくれたり、地元の農産物を並べてくれています。程よく咲いている桜の下、河川敷の水際に持参の大きなシートを広げて、しばし休憩。

荷物をそこに置いて身軽になって歩きます。



水車のそばでは、奈良時代から平安時代までの古典文学、70数年前の災害の状況、そして玉川の山吹の品種など、ふるさとボラン

ティアさんから盛りだくさんの話が聞けました。

休憩所のある井手町まちづくりセンター椿坂から、山背古道の小道に入り「小野小町塚」へ。石碑には小町晩年の歌「色も香も なつかしきかな蛙鳴く 井手のわたりの山吹の花」さらに坂道を登ると、見事に咲き誇る地蔵禅院の枝垂れ桜が迎えてくれます。もう300歳の老木ですが頑張っていました。足に余力のある人は、さらに息つく急階段の先の玉津岡神社へ。高台から見渡せば、のどかな井手町の街並みが望めます。ただ新設の近代的な町役場には少し違和感がありました。ゆっくり道端の春の野草を眺めながら、玉川堤に戻ります。清流の音を耳に持



参の弁当で昼食です。水辺にセグロセキレイが来てくれました。お酒も入って花見の宴は盛り上がります。暖かい日差しを受けて、朝は5分咲の桜がほぼ満開になりました。

皆さん都会の近くに、こんな清流と桜並木、文化と歴史の町がある事を知らなかったので、「また来年もここで花見をしたいな」との声も。



近くに草木染めの展示会があり、ちょっと寄り道の時間もありました。駅への帰り、湧水のある「蛙塚」に立ち寄った後15時解散しました。

行程3km(少し階段)皆さまお疲れ。